

科目名	スポーツ医学特講	担当者	ホテヤ 布袋屋 コウ 浩	期間	通年	単位数	4
-----	----------	-----	-----------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講座は、スポーツ医学の基礎的知識の修得により、スポーツ活動中に多いケガや病気について理解を深めることで【A-1:4】、これらの対処法や予防法を身に付け【A-4:4】、そして競技力向上に役立てるために、自分なりの視点から論ずることができるようになる【A-8:4】ことを目的とする。</p> <p>さらに、近年の平均寿命の延長とともに要介護者の急激な増加といった社会的問題に対する解決策の一つとして、ロコモティブシンドロームについて理解し【A-1:4】、スポーツ医学の知識を応用することで運動器の障害をいかに予防し健康で長生きするか【A-4:4】、すなわち健康寿命をどうやって延ばすかを考える【A-8:4】。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>問題発見・解決力：スポーツにおける諸問題の課題解決のために、スポーツ医学の知識を理解し、スポーツ現場における問題解決方法を修得し、具体的な解決策を提案する能力を身につける。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>1) スポーツ医学の基礎的な知識を身につける (知識・想起)。2) 一次救急処置、心肺蘇生の手順、AED の使用手順などスポーツ救急医学を列挙する (知識・問題解決)。3) スポーツ外傷・障害について理解し、その対応および予防法を見出す方法論を列挙する (知識・解釈)。4) ロコモティブシンドロームについて理解し、その対処法を説明する (知識・問題解決)。5) われわれの生活とスポーツについて再考し、スポーツによる豊かな生活と文化の向上に役立てる方法論を説明する (知識・問題解決)</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>参考文献などの調査やフィールドワークによりレポートを作成する。</p> <p>【学修方略 (LS)】</p> <p>レポート課題に沿って、テキストや参考図書を基に自分自身でスポーツ医学の分野において興味のあることを題材に取り上げ、その題材に関する必要な文献の検索を行い、それに対する考え方をレポートとしてまとめる (自習)。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <p>1つのレポート作成にあたり、基本教材および参考文献の読み込みに30時間以上、Manaba-Folio への提出・再提出のやりとりに20時間以上を目安とする。</p>		
スケジュール	<p>前期：教材1または2のレポート課題1の草稿は7月末、課題2は8月末を目処に提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談することが望ましい。いずれの課題も9月19日までに最終稿を提出する。</p> <p>後期：教材2または1のレポート課題1の草稿は11月中旬、課題2は12月中旬を目処に提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談することが望ましい。いずれの課題も提出締切日 (1月14日) までに最終稿を提出する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	テキストの理解度、着眼点、取り上げた課題の適切性、考え方の科学性・妥当性、最新の知見の反映、自分自身の専門分野との関連性、およびレポートの構成や記載方法、図・表の活用方法、引用文献の記載方法等を評価する。
	観察記録	20%	レポート作成に関する Manaba-Folio への提出・再提出のやりとり状況や態度などを評価する。
履修者への要望	<p>スポーツ医学は、整形外科や内科といった医学的知識はもちろん、運動生理学、機能解剖学、健康管理学など幅広い分野が関与しています。これらを踏まえてスポーツ外傷・障害について、その疫学、診断、治療、リハビリ、および予防やトレーニング方法など、特に興味のある分野について課題を見つけ、それを解明することによって、スポーツ医学の基礎を学ぶことをテーマ1とします。そしてロコモティブシンドロームを理解し、その対処法を含めて、自身はもちろん周りの方々に関心を持って頂きロコトレを推奨出来るようになることをテーマ2とします。</p> <p>1) レポートを作成する前に、取り上げる題材やレポートの構成 (目次案等) について、メール等で連絡相談して下さい。</p> <p>2) 題材の選択は自由ですが、レポートは、簡潔明瞭にまとめることを心掛けて下さい。</p> <p>3) 教材・参考図書を全て読み込む必要はありません。むしろ題材に関連した文献は自分で検索して下さい。</p> <p>4) 引用文献については、各々の研究分野の形式に従って、適切に記載して下さい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： (1)小出清一, 福林徹, 河野一郎編 教材名： 『スポーツ指導者のためのスポーツ医学』(南江堂, 2009年) ISBN: 978-4-524-24034-0 3,200円+税 スポーツに伴う外科系, 内科系の外傷・障害について, 発生メカニズムから症状, 現場での処置, 医学的治療までをわかりやすくまとめ, またスポーツ活動に関わる者として心得ておくべき関連知識や救急処置などについて解説。
参考図書	林光俊編集主幹『ナショナルチームドクター・トレーナーが書いた種目別スポーツ障害の診療』(南江堂, 2014年) ISBN: 978-4-524-26916-7 6,800円+税
履修上のポイント	スポーツ外傷, スポーツ障害について, その発生メカニズムから症状, 現場での処置などの基礎的な知識・手技について学ぶ。取り上げた教材・参考図書は, あくまで一つの参考資料に過ぎず, 必要な文献は自分で調べる。
レポート課題 1	スポーツにおけるケガや故障, すなわち「スポーツ外傷・障害とはなにか」を理解する。その上でスポーツ医学が関連する疾患について, 外科系・内科系のスポーツ外傷・スポーツ障害, 成長期・中高年特有のスポーツ障害, あるいは罹患部位(肩, 膝, 腰)別のスポーツ傷害など, 何でも良いので一つ取り上げ, その疫学, 原因, 対処法, 予防法, リハビリテーション・リコンディショニングのポイントなどに関して, 最新の知見も踏まえて述べる。
レポート課題 2	レポート1で選択した課題以外で, 出来ればスポーツ種目別で, 特に関心のあるスポーツ外傷・障害について, 課題1と同様にその疫学, 原因, 対処法, 予防法, リハビリテーション・リコンディショニングのポイントなどに関して, 最新の知見も踏まえて述べる。 留意点 : なるべく自分自身の経験を基にする(家族や周囲の方の事例でも可)。

基本教材 2	
教材の概要	(1)奥水健治著 『基礎から学ぶ, スポーツ救急医学』(ベースボールマガジン社, 2009年) 著者名: ISBN:978-4-583-10213-9 1,600円+税 教材名: (2)中村耕三著 『実践!ロコモティブシンドローム第2版』(三輪書店, 2014年) ISBN:978-4-89590-467-4, 2,000円+税 (1)スポーツ選手, 指導者, トレーナー, 保護者向けに, AED(自動体外式除細動器)の使い方, CPR(人工呼吸+胸骨圧迫)のやり方など, 安全なスポーツ環境づくりと応急処置について解説。 (2)運動器のメカニズムやロコモティブシンドローム=運動機器症候群の解説や, 自分の運動器の状態を自己点検できる「ロコチェック」, 予防・改善のための実践「ロコトレ」を解説した改訂版。
参考図書	『ロコモティブシンドローム診療ガイド2010』(日本整形外科学会, 2010), ISBN:978-4830627637, 2,800円+税
履修上のポイント	日本は世界に類をみない長寿国家であるが平均寿命の延長に健康寿命が追いついておらず, 要介護者の急激な増加が社会的問題となっている。それに対して運動器の障害をいかに予防し健康で長生きするか, ロコモティブシンドロームについて理解する。そしてスポーツがわれわれの人生においていかに役立っているかを考える。
レポート課題 1	一次救急処置, 心肺蘇生の手順, AED使用手順など, スポーツ活動中に倒れている人を発見した場合の具体的な対応手順について述べる。
レポート課題 2	平均寿命と健康寿命, ロコモティブシンドロームの概念, 運動器の障害の代表的な疾患について述べる。ロコモティブシンドロームの対処法と, 健康的に長生きすることに関するスポーツの意義・役割について述べる。 留意点 : なるべく自分自身の経験を基にする(家族や周囲の方の事例でも可)。